

佐渡一仏峠のブナ巨木

坪田和人

「ブナの巨木リスト」によると佐渡ヶ島の仏峠に5.4mの巨木の存在するという。ブナの巨木といっても案内図があるわけでもなく、道さえ付いていない。従って特定の巨木を訪ねるためには正確な位置の情報を頼りに地形図とニラみっこしながらその一点を目指すことになる。「ブナ林のいざない」という本に仏峠の巨木が写真付きで紹介されていた。記事を書いた相川林業組合に問い合わせをすると菅原さんという方から返事をいただいた。それによると記事を書いた方は既に県庁に転勤されていて、巨木の存在を知っている人がいないので、雪解けを待って現地に確認に行つて来るという返事であった。

しばらくして古老の話を頼りに探してその巨木を見つけたという朗報と林業用の詳細な地図に巨木の位置を知らせていただいた。すぐにお礼の電話をし、近々訪ねてみたいと意志を伝えると、「現地はタクシーが行ってくれるかどうか解らないほどの悪路の林道で取り付きも解りづらいので案内します」という有り難い提案をいただいた。ブナの山旅では多くの方々にお世話になっているが、こういう親切なご提案をいただいた方とは直接お会いしてお礼をしたいと、提案をお受けすることにしている。

新潟からジェットホイールで両津港に到着すると菅原さんの代理の中村さんが出迎えてくれていた。菅原さんは研修で都合が悪いのだという。中村さんは近くの名所である牛尾神社のスキの巨木、長谷寺の高野マキの巨木、三本スキを案内して下さった後、仏峠に向かう。途中から雨水で深く抉られて、凸凹だらけの荒れた林道を車体の底をこすりながら走る。ここが登り口と云われたところにはイタドリ草が生い茂っていて、中村さんの案内がなければ、とてもここが登り口だと判別など出来そうにない所であった。草を分け入って、踏み後程度の道を行く。20分ほど登って、ここですと指さす方向を見ると、あった、あった。

大きなブナの巨木が1本だけ、まわりの空間を占有するように立っていた。目標としてきたブナの巨木に出会えた感激で、しばらく声も出ない。じっと巨木を見つめていると、巨木も私の方をじっと見つめて話しかけているように思えた。遅い太い幹は実に堂々としていて貫禄十分であった。このような巨大な命を目の前にするとその大きさに威圧されるのか私の首は自然と垂れてくる。こんな感じを神聖というのだろうか。ここのブナの巨木も何本もの大木がくっ付き合ったようで、幹は凸凹していて、技が折れた後は瘤の様に盛り上がっている。この巨木の幹にはコケも余り付着

して居らず、樹肌もやや白っぽく、ザラザラした樹肌であった。この樹肌は学術的にも珍しいものだという。さつそく簡易メジャーで幹まわりを計測してみる。さすがに巨木で私の簡易メジャーでやっと計測できる大きさだ。胸の高さで約5.4mであった。幹の上には何本もの大木のような技を天空に立ち上げている。天空には芽吹いたばかりの若葉が透けるような柔らかなグリーンを拡げていて、若さが澁刺としている。この巨木は実に若々しさに溢れた巨木であった。この巨木は樹高は20mくらいであろうか、和賀山地や函南の巨木ほどの高さはなかったが、そのぶん手の届く辺りまで枝がぶら下がっていて、若葉を繁らせていた。その今年生まれたばかりの若葉と、太い年輪を感じさせる幹とが好対照をしていた。

巨木の側に「仏の峠」と書かれた古い道標が立っていた。言い伝えによると、その昔、真光寺が火災にあって、本堂の薬師如来も焼失してしまったが、それから毎晩のように北山に野火が見え、不思議に思った村人が恐る恐る登ってみると、そこには片肌が黒焦げになった薬師像が座っていた。その後、その場所を「仏の峠」と云うようになったのだという。そのような神聖な場所に立っている巨木であるから、まわりのブナが伐採されてもこの巨木だけが残されたのであろう。まわりを見渡してもブナはこの巨木しか見あたらなかった。

この巨木は地元でも存在は忘れ去られていた。中村さんは「坪田さんの問い合わせがあったので、このような貴重な巨木の存在が再確認できた。我々も喜んでます」という事であった。私は念願の仏峠のブナの巨木に出会え大いに満足した。これも相川林業事務所の菅原さん、中村さんのご厚意のお陰だ。こんな素晴らしい人々に出会うことが出来たのも、ブナの巨木が仲介してくれたからだ。ブナ林探訪という山旅はそんな素晴らしい出会いも与えてくれるのだ。

佐渡・仏峠

・アプローチ

両津港から路線バスで佐和田町鍛冶町まで約20分。石田川源流方面に伸びる林道真光寺線を約5km(車で約20分)で作業道の入口へ。(標高約480m付近)

・登山道の状況

作業道の入口には何の標識もない。林道のカーブの曲がり角付近で踏み跡を探す。作業道には踏み跡程度の道が残

っている。道は小さな尾根に沿って緩く登っている。約20分程で（標高510mあたりで）左側に入る道を分ける。作業道は更に上に登っているが、左側に10mほど入ったところに一本だけブナの巨木が立っている。仏峠といっても尾根の途中にあり、峰を越えているわけではない。

・問い合わせ

佐和田町役場 0259-57-2111

相川林業事務所 0259-74-3311

・地形図「相川」

・コースタイム

平成7年5月13日

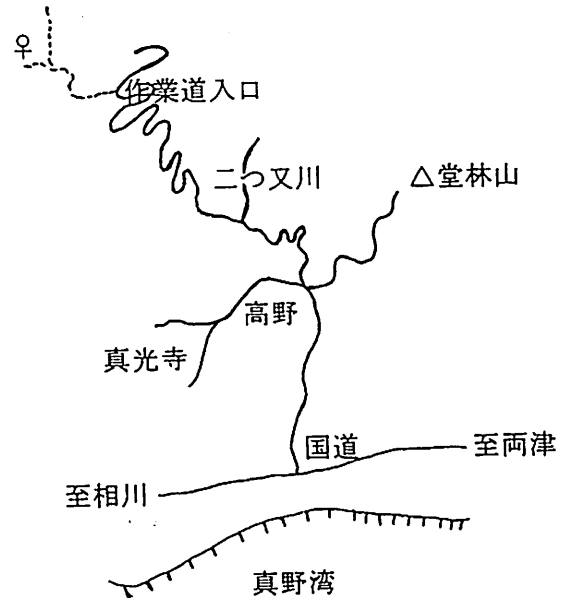
両津～作業道入口 13:10……仏峠 13:35……作業道

入口 14:40

郵便番号 270-1138

千葉県我孫子市下ケ戸707-2

概念図



坪田和人氏は日本全国のブナ林を約200ヶ所を訪れて、来春には山と溪谷社から「ブナの山旅」として出版する予定とのことです。出版されましたらご案内しますので、是非購入して頂きたいと存じます。(S. I. 記)

新潟県植物保護 冊子発刊の遅れについて

新潟県植物保護第23・24号は、出版予定日を大幅に遅れて申し訳なく思っています。事務局の責任ですが、第23・24号を合併して一冊にまとめて出版することを御許し下さい。新潟県植物保護協会が責任ある仕事の分担をすることが多くなり、本来の冊子発刊が後回しになって恐縮しております。1997・1998年に当協会に委託された事業には、次のようなものがあります。

1. 「越後 新津丘陵 里山の植物」出版のための調査
2. 特定植物群落調査（環境庁）新潟県からの委託調査
3. 新潟県版レッドデータブック作成 新潟県からの委託調査

1. については、すでに調査終了し、「越後 新津丘陵 里山の植物」として出版できましたので、すべて完了しました。
2. については、現在大部分は調査済みで、報告書の作成作業を進行中です。
3. については、調査結果に基づき会員から情報の収集を進めている段階です。（本冊子21頁を参照：会員在住の地域の情報の提供を御願い致します。）